

JAC AWARD 2022 私が選ぶベスト3



村田俊平

株式会社電通 CMプランナー

2009年電通入社。

電通九州・BWM Dentsu(メルボルン)などなぜか島国ばかりの出向を経験し、2020年より本社復帰。

最近の仕事に、リクルートAirWORK 採用管理 松本人志・山田孝之「ライトプロス印刷社」

AirPAY オダギリジョー「じゃあいいですう」、タウンワーク 木村拓哉・芦田愛菜「The Endless Break」

EMシステムズ「エンドロール」など。

ディレクター部門

★First place

▶ 「幸せの神」 小林 洋介（東北新社）

幸せをひっくり返して、「ちょっとした不幸」から描くのは上手い視点だなと思いました。ラストもかなりびっくりしました。神のキャラクターを神様っぽく作り込まないのもいいなと思いました。「神はしあわせなのか？」という問いについてが回収されていないのがやや消化不良ではありましたが、その問題提起も含め奥深い作品になっているのではないのでしょうか。

★Second place

▶ 「毒林檎」 藤後 麻理絵（博報堂プロダクツ）

作品全体の絵作りがよく制御できていると思いました。美しい絵が計算されていて素直にすごいと思いました。最後に現実世界に戻ってこずとも、あの世界観の中に浸っていてもグラフィック系ムービーとしてはいいのかとも思いました。美しい世界観が見終わった後も脳裏に焼き付いています。

★Third place

▶ 「もしあの時」 何 瀾（電通クリエイティブX）

視点が非常にいいと思いました。プチ不幸が、幸せを呼び込む、塞翁が馬的な話で、中途半端で終わらず最後死なせているのがブラックユーモアとしてもいいと思いました。お婆さんの天使や登場人物の衣装、設定など ややコントコントしすぎているのが気になりましたが全体最初から最後まで面白く見させてもらいました。

ディレクター個人応募部門

★First place

▶ 「祖母のアンサー」 長塩 希代（博報堂プロダクツ）

ドキュメンタリーとして、身近なお年寄り（おばあちゃん）に「しあわせ」について話を聞く、と言うのは灯台下暗しでハッとさせられました。見つかった写真も非常に力強いものがあります。「しあわせは決意。」というコピーはおばあさんのお話から少し遠い気がして、引っかかってしまいましたが、「しあわせ」の持つ多義性に逃げずに挑戦しそこに答えを提示しようとしている姿勢を強く評価したいと思いました。

★Second place

▶ 「家族」 森野 継偉（GMO ENGINE）

企画、演出ともに非常に優れていると思いました。ほのぼのとしたベタな幸せの雰囲気を手前に作れていると思いました。そこから仮想空間への振れ幅も効いていました。一方、コントロールが難しい部分ですが、最初のシーンがベタすぎるがあまり、後半悪いことが起きるだろうな、というのが読めてしまったのが少しもったいなかった。1位と非常に迷ったのですが、しあわせを逆から描くアプローチがやや構えを小さくしてしまった。いやでもとても良くできているムービーだと思いました。

★Third place

▶ 「ミサイルガール」 神原 遼太郎（TYO）

非常に美しい世界観がディレクターの力で制御されていると思いました。残念だったのは世界観は美しいのですが、「しあわせってもっと自由だ。」のコピーが腑におちず、ムービーとしあわせをブリッジさせてあげてもいいかな・・・と思いました。全体強力なアートディレクションの力を感しました。